

第 16 回日本薬局学会学術総会  
ポスター発表

保険薬局における糖尿病患者へのインスリン手技確認に関する課題の抽出

総合メディカル（株）そうごう薬局 北帯山店  
古賀 友香里

【目的】インスリン自己注射に関する手技の指導は、針の装着、空打ち、注入後の待機など注意すべき項目が多くあるが、詳細に手技を確認する機会が病院・薬局双方で限られている。そこで、保険薬局でデモ用注射器を用いて詳細に手技を確認する取り組みを行い、今まで十分に確認できていなかった薬剤師による手技確認での問題点について検討した。なお、確認項目については演者等が参加する InPCT プロジェクトの資料を参考とした。

【方法】2021年3月～8月、そうごう薬局 11 店舗で同意を得たインスリン使用患者を対象に、デモ用注射器を用いて薬剤師が手技を実演しながら確認を行った。調査項目は糖尿病歴・インスリン使用歴等の基本情報とあわせて、空打ちの方法、注入後の待機時間、針交換の頻度、注射器保管状況等 13 項目とした。

【結果】期間中インスリン使用患者 143 名に声掛けし、手技確認に同意を得られたのは 60 代以上の 60 名であった。全員糖尿病歴 5 年以上、約 7 割がインスリン使用歴 5 年以上の患者であった。13 項目全ての手技が適切であった患者は 5 名で、全員インスリン使用歴 5 年未満であった。不適切な項目が多かったのは、未開封のインスリンを使用開始の際に室温にもどしていない (37 名)、注入後待機時間が 10 秒より短い (15 名)、ゴム栓・注射部位双方を消毒していない (14 名)、注射針を上に向けての空気抜きが出来ていない (13 名) であった。その他、使用済み針を家庭ごみに廃棄したことのある患者が 2 名いることがわかった。

【考察】今回の手技確認は 13 項目と確認に時間を要するため同意頂けた患者は少なかったが、聴取できた 60 名からは具体的な問題点を把握することができた。このことから、薬局でのインスリン手技確認は、実施有無だけを口頭質問するだけではなく、デモ用注射器を用いるなど具体的に確認することとし、薬局での定期的な手技確認についても患者に継続して理解を求める必要があると考察した。